

高目の化け猫物語

むかしむかしの話。高目の^{あらやしき}新屋敷に家が4、5軒あったころの話だど。高目に旅芸人が来て、寺で唄や踊りを見せただど。

村人はこぞって見に行ったのに、新屋敷のとある家では、まだ来たばかりの嫁に「おめえは家の掃除でもしてろ」と言って連れて行かねがっただど。嫁は行きだぐて行きだぐて、声を出して泣いただど。そしたら飼っていた猫が「嫁こよ。そんなに行きでのか。唄や踊りを見てのか」と言ったとさ。嫁が「オラもみんなと同じよに見て」と言うと、「そんじゃ、芸人よりも上手にやって見せっべは」と言って、次から次へとやって見せただど。嫁は涙をながしながら「猫様ありがと。本当にありがてな」と喜んだだど。

猫は「これ嫁こよ。絶対に人にしゃべんざねぞ」と何回も何回も念を押しただど。

嫁は言うことを守っていたけど、しゃべっきくてしゃべっきくて、10日位もぞもぞしていたけど、我慢できなくて「オラ寺さいかねけど、猫にそれ以上の芸を見せてもらった」と、たいそう自慢をしただど。「あれ程しゃべんなどゆったのに、ペラペラしゃべったべは」と猫はたいそう怒って、その嫁の咽に^{のど}くらくらいつき^か噛みちぎっただど。

それが元で嫁は死んでしまい、働きてを失ったその家は運が下がり調子になり、そのうち潰^{つぶ}れてしまっただどさ。

(福地美代子氏談より)



踊る猫と喜ぶ嫁
(イラスト：高久めぐみさん)



↑現在の高目の新屋敷付近



今月の表紙

今月の表紙は、5月10日に行われたこゆりこども園での交通安全教室から。園児たちは、交通安全母の会の皆さんや丞神デナーなどに交通ルールを教えてもらいながら、右見て、左見て、右見て、手を挙げて元気に横断歩道(園内に作った模擬横断歩道)を渡っていました。

編集後記

そういえば、すっかり触れるのを忘れていたのですが、4月から広報担当が2人体制になっています。すでにイベントなどで見かけた方もいるかもしれませんが、これから、私が引き続き1日号(広報にしあいづ)を担当し、月の真ん中15日号(広報にしあいづのお知らせ版)を本年度採用のニューフェイス、二瓶弘勢^{こうせい}くんが担当します。今後は15日号にも「編集後記」ができるのではないか。

編集後記が一番大変? 長谷川祐一